

ICFに関するこれまでの取り組み

第5回生活機能分類専門委員会
生活機能分類普及推進検討WG
令和3年2月10日～2月16日

参考資料2

1980年 ICIDH*（国際障害分類）をWHOが発表

- ・ ICD-11の補助分類として作成

*International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps

2001年 ICF*（国際生活機能分類）をWHOが採択

- ・ ICIDH改訂版としてWHO総会にて採択

- ・ 「環境因子」が新たに追加

*International classification of Functions, Disability and Health

2002年 ICF日本語版発行

2006年 ICF専門委員会を社会保障審議会統計分科会の下に設置

- ・ 2020年4月迄に計20回開催

2007年 「活用と参加の基準（暫定案）」を公表

- ・ ICF専門委員会において、「活動」及び「参加」の分野に関する評価点導入の手引きを作成

日本国内での普及に向けた実質的な議論がスタート

2010年 「ICFシンポジウム」を開催

- ・ 2021年2月迄に、ほぼ毎年度実施（計9回）

2018年 改訂「ICD-11」*が公表され、ICFの項目が一部追加

- （6月）・ ICFの概念に基づく「第V章生活機能評価に関する補助セクション」が追加

*International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, Eleventh Revision

（11月） WHOとの合同フォーラムを開催

- ・ WHO担当官2名を東京に招聘し、ICD-11の公表を記念する基調講演とあわせて、ICFとの一体的活用を目的とした公開講座を開催

2019年 第19回ICF専門委員会において、現場レベルにおけるICFの一層の普及を目的とした「生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ（WG）」の設置を決定

（3月）

（5月） 改訂「ICD-11」をWHOが採択

- ・ ICD-11の補助チャプター（第V章）に、ICFの考えを導入

2021年 生活機能分類普及推進検討WGの活動報告を取りまとめ

（3月）